

2. 事業の概要

(1) 水道事業指針	23
(2) 基本計画	24
(3) 福島市上水道施設概要図	24
(4) 水道事業概要	25
(5) 主要事業	26

2. 事業の概要

福島市の水道事業

本市の水道は、明治11年湧水を利用した簡易水道として市民の日常の用水を供給してきたが、水源地の水量不足と衛生面から上水道布設の要望が高まり、大正14年4月阿武隈川を水源とする計画給水人口50,000人、計画1日最大給水量5,550 m^3 の規模で供給を開始した。

その後、市政の進展と近隣町村の合併、生活様式の変化等に対応するため、昭和22年の第1次拡張事業から7次にわたる拡張事業を実施し、主要水源施設である渡利浄水場の増補改良工事をはじめとした新たな水源開発を行い、供給量の増加と給水区域の拡大を図ってきた。

しかし、第1次から第7次にわたる拡張事業の間に開発した水源は地下水等が主であり、小規模水源では将来の水需要を賄うことができないため、長期的な展望に立ち、摺上川ダムにおける水源の確保に取り組むとともに、福島地方水道用水供給企業団からの受水を基本とした第8次拡張事業を平成元年から実施してきた。

第8次拡張事業では受・配水池や送・配水管等の整備を進め、その結果、平成19年度に本格受水を迎えることとなった。同時に創設から本市の主要施設であった渡利浄水場を廃止した。

平成20年7月には飯野町との合併、平成21年度には、鳥川配水池の完成をもって、創設から8次にわたる拡張事業が完了した。

これにより、本市の水道水は現在、摺上川ダムを水源とする福島地方水道用水供給企業団（すりかみ浄水場）で適切に処理された浄水を5つの施設（北部配水池、中央部受水池、南部受水池、鳥川配水池、飯野受水池）で受水し、供給している。

(1) 水道事業指針〔ふくしま水道事業ビジョン(福島市水道事業基本計画2016)〕

① 基本理念

「いのちの水」を絶やすことなく信頼され親しまれる水道に向けて、次の100年へ挑戦します。

② 基本方針

ア 安全でおいしい水の供給

水質管理を徹底し、いつでも良質で安全でおいしい水を供給できる水道を目指します。

イ 災害に強い水道の構築

適切な施設管理と維持管理の強化に努め相互応援体制の確立を図り、災害に強い水道を目指します。

ウ 持続可能な水道経営

お客さまニーズの把握と健全経営に努め、持続可能な水道経営を目指します。

エ 地球にやさしい水道へ挑戦

良質な水道水の源となる水源を今後も保護しながら、自然環境への負荷低減を目指します。

③ 計画期間

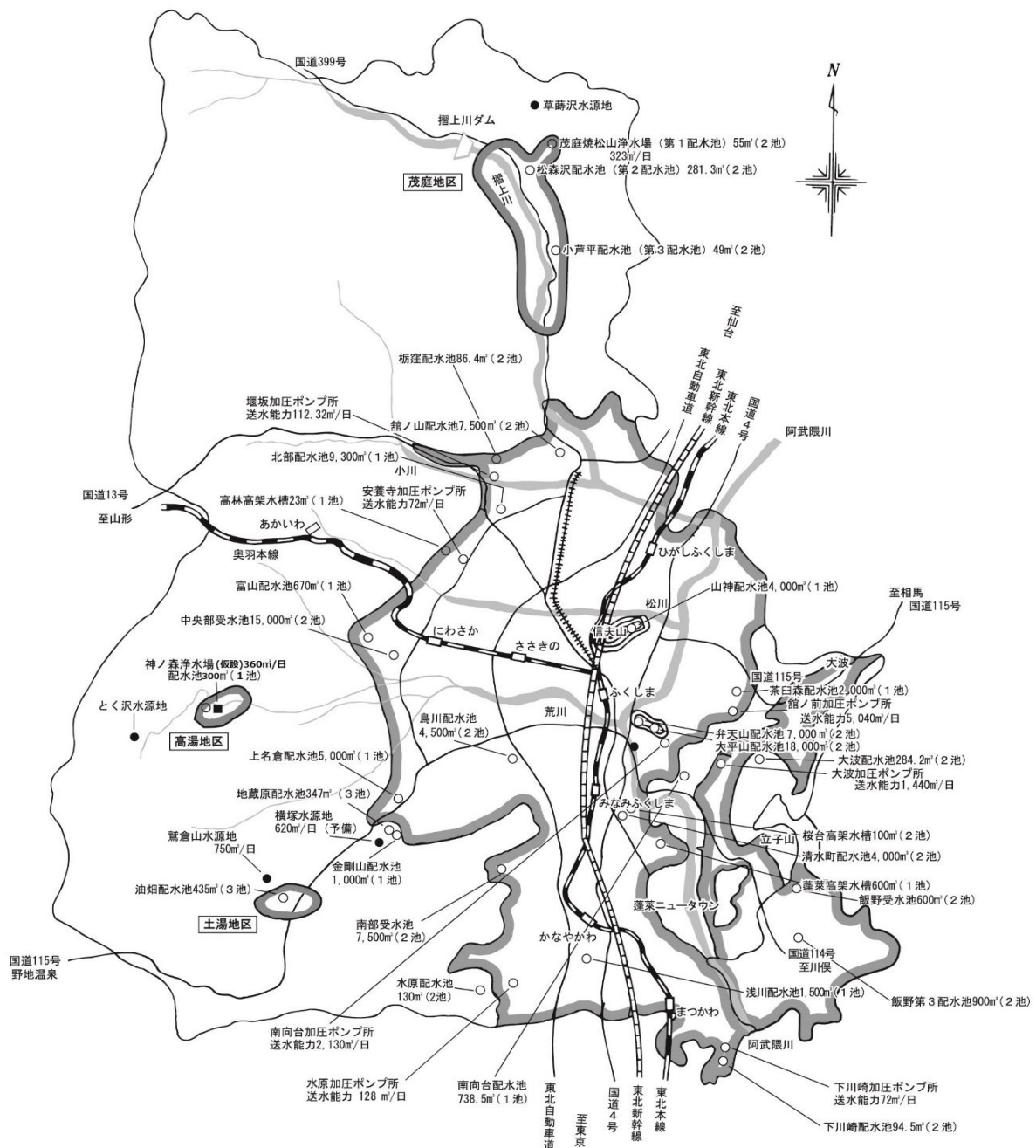
平成28年度から令和7年度までの10年間

(2)基本計画

名	称	計 画 給 水 人 口	計 画 一 日 最 大 給 水 量	計 画 一 人 一 日 最 大 給 水 量
福島市	上水道事業	274,300人	102,112m ³	372ℓ

※1 基本計画につきましては、認可の内容を記載。

(3)福島市上水道施設概要図



(4) 水道事業概要

令和2年度の水道事業は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも『「いのちの水」を絶やすことなく信頼され親しまれる水道に向けて、次の100年へ挑戦します』を基本理念として、「ふくしま水道事業ビジョン（福島市水道事業基本計画2016）」の基本方針である「安全でおいしい水の供給」、「災害に強い水道の構築」、「持続可能な水道経営」、「地球にやさしい水道へ挑戦」を事業の軸として、水道水の安定供給の確保と健全な経営の確立に努めた。

主な事業として、「安全でおいしい水の供給」においては、南林、林ノ内の両民営水道組合の統合事業を実施し、令和2年12月に統合を完了したほか、「災害に強い水道の構築」としてアセットマネジメントの手法に基づく老朽管更新事業等を継続して推進するとともに、一部仮稼働であった水道施設情報管理システムの構築業務委託が完了し維持管理の強化及び効率化に向けた体制を整えた。

「持続可能な水道経営」においては、経営基盤の強化を図るため、配水管布設工事助成制度や大口需要者を対象とした個別需給給水契約制度などにより上水道利用を促進し、将来的な水需要の確保に引き続き取り組んだほか、遊休施設の整理として、しのぶ台高架水槽施設撤去工事を実施した。また、組織力の強化を図るため、水道事業の中核である厚生労働省、水道事業のトップランナーである東京都水道局へ職員を長期研修として派遣するとともに、戦略的広報広聴の推進として、飲食品のミシュランガイドと言われる国際味覚審査機構の審査に出品し、水道水として日本初の優秀味覚賞二つ星を獲得するとともにモンドセレクションで4年連続最高金賞を受賞するなど、ふくしまの水のブランド力向上に努めた。

「地球にやさしい水道へ挑戦」においては、北部配水池において民設民営方式による小水力発電事業を引き続き実施したほか、水素自動車を購入し環境負荷低減を図った。

経営の状況は、主たる財源である水道料金収入は、新型コロナウイルスの影響を受け家庭用使用水量が感染予防対策や外出自粛などにより増加したものの、旅館業などのサービス業をはじめとする大口需要者に係る使用水量が減少し料金収入が減少した。

なお、新型コロナウイルスに伴う支援策として、旅館業の水道料金を4カ月間減免する措置を講じたほか、水道料金の支払猶予を設け使用者の負担軽減の措置を講じた。

また、2月13日に発生した福島県沖地震により水道施設が被害を受けたことから、ただちに災害復旧工事を行い、水道施設の復旧に努めた。

今後においても、災害に強い水道の構築を目指し、基幹施設、基幹管路の計画的な更新に取り組み耐震化を図り、限られた財源の中での効率的な施設更新を実施するため、水道施設情報管理システム等を活用するとともに、予防保全型による維持管理、漏水防止に努め長寿命化を図る。

一方、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済動向の低迷が長期化しており、水道事業へ与える影響は厳しいものであるが、状況に応じた対応を検討し、将来にわたり持続可能な水道事業の確立に努める。

令和2年度決算の概要は以下のとおりである。

① 業務の状況

ア 給水人口及び戸数

区 分	令和2年度末	令和元年度末	対前年度増減	増減率(%)
給水人口(人)	277,419	278,474	△1,055	△0.4
給水戸数(戸)	127,861	127,406	455	0.4
普及率(%)	98.1	97.8	0.3	—

イ 配水量

(単位 m³)

区 分	令和2年度末	令和元年度末	対前年度増減	増減率(%)
年間総配水量	30,149,814	29,973,049	176,765	0.6
1日最大配水量	98,603	91,052	7,551	8.3
1日平均配水量	82,602	81,894	708	0.9

ウ 有収率

(単位 %)

令和2年度末	令和元年度末	対前年度増減
90.3	90.0	0.3

エ 供給単価と給水原価

(単位 円)

供給単価	給水原価	差 引
235.58	226.50	9.08

(有収水量1 m³あたり)

(5) 主要事業

1 老朽管更新事業

市内中心部に多く現存する、創設時から昭和30年代に整備した鑄鉄管は、衝撃に弱く耐震性に乏しいため、破損による被害の拡大が懸念される。

本事業は、耐震性の向上と安定供給を維持することを目的とし、生活基盤施設耐震化等交付金事業として実施するものである。

総事業費	1,849,647千円	
事業期間	平成22～令和3年度（12年間）	
事業内容	配水管布設 ダクタイトル鋳鉄管（NS・K）鋼管 ポリエチレン管 φ75～400mm 14,203m 実施設計（推進工ほか）	
令和元年までの 実施内容	事業費	1,825,837千円
	事業内容	配水管布設 ダクタイトル鋳鉄管（NS・K）鋼管 ポリエチレン管 φ75～400mm 14,203m 実施設計（推進工）
2年度実施内容	事業費	－
	事業内容	－
今後の実施見込 （～令和3年度）	事業費	23,810千円
	事業内容	路面復旧工事（パセオ通り）

2 老朽管更新事業（ダクタイトル鋳鉄管）

本事業では、経年劣化が進み、強度、耐震性に劣る基幹管路（布設後30年以上経過したダクタイトル鋳鉄管）を対象に生活基盤施設耐震化等交付金事業として更新を行うものである。

総事業費	5,961,104千円	
事業期間	平成25～令和13年度（19年間）	
事業内容	配水管布設 ダクタイトル鋳鉄管（NS・GX・PN） φ200～1,000mm 24,045m 実施設計（推進工）	
令和元年までの 実施内容	事業費	2,023,549千円
	事業内容	配水管布設 ダクタイトル鋳鉄管（NS・GX・PN） φ200～500mm 6,787m 実施設計（推進工）
2年度実施内容	事業費	445,100千円
	事業内容	配水管布設 ダクタイトル鋳鉄管（NS・GX） φ200～400mm 2,333m
今後の実施見込 （～令和13年度）	事業費	3,492,455千円
	事業内容	配水管布設 ダクタイトル鋳鉄管（NS・GX） φ200～1,000mm 14,925m

3 簡易水道再編推進事業

本事業は、簡易水道事業統合計画に基づき、国庫補助を導入し簡易水道事業の施設整備を実施するものである。土湯簡易水道事業においては配水池の耐震化更新工事、高湯簡易水道事業においては浄水場更新工事、茂庭地区簡易水道事業においては浄水施設や送配水施設における運用管理を一括管理するため、遠隔監視装置の設置工事を行うことで、水の安定給水の確保を図るものである。

総事業費	1,143,183千円	
事業期間	平成26～令和7年度（12年間）	
事業内容	（高湯）浄水場更新 RC造 V=440m ³ （茂庭）遠隔監視装置設置 （土湯）配水池耐震化更新 RC造 V=330m ³	
令和元年度までの 実施内容	事業費	651,681千円
	事業内容	（土湯）実施設計 （高湯）浄水場更新 （茂庭）遠隔監視装置設置
2年度実施内容	事業費	—
	事業内容	—
今後の実施見込 （～令和7年度）	事業費	491,502千円
	事業内容	（土湯）配水池耐震化更新 RC造 V=330m ³

4 漏水調査事業

配・給水管路を路面及び戸別に漏水音聴調査等を実施し、漏水の早期発見と迅速な対処に努めている。

年度 区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度計画
漏水調査距離（km）	799	747	1,150	1,120	970	910
漏水発見件数（件）	240	218	304	265	271	
推定漏水量（m ³ /年）	1,659,000	1,458,000	1,360,000	1,349,000	2,099,000	

5 小水力発電事業

本事業では、ふくしま水道事業ビジョンで掲げる基本方針に基づき、水道水の安定供給を確保しながら、位置エネルギーを利用した小水力発電の導入（民設民営方式）により、積極的に環境負荷の低減に努め、「環境最先端都市 福島」の実現を目指すものである。

<ふくしま北部配水池発電所>

二酸化炭素削減量	382.2 t-CO ₂
発電量	783,288 kWh